

札幌での「世界祈祷日2024」へのお誘い

「世界祈祷日」とは

「世界祈祷日」は1887年、多様なキリスト教の伝統を共有するアメリカの女性たちが、移住者、抑圧されている人たちのために始めた運動です。その後、地球規模の視野をもって、和解と平和を求める祈りによる世界的な運動に発展しました。

キリスト教のさまざまな教派が、協働して開催すること、また現在でも女性が運営に重要な役割を果たしていることが大きな特徴です。伝統的には3月最初の金曜日に開催されてきましたが、他の日程でもかまわないとされていますので、札幌は5月18日にすることに決めました。

世界のさまざまな国をとりあげ、その国のクリスチャンのために祈る「世界祈祷日」では、毎年、世界のどこか1国をとりあげ、その国の女性たちが、礼拝の式文を作成します。これを式文作成国と言います。2024年は、いまも戦争が続くパレスチナでしたので、パレスチナに思いを寄せるキリスト者以外の市民の方々にも参加していただきたいと願っています。

「世界祈祷日」での献金は、「世界祈祷日」国際委員会(WDP)を通じて、式文作成国や、国内外の女性たちのさまざまな活動支援に使われます。

プログラム *事前申し込みは不要です

*ライブ配信もあります おもて面にURL、QRコードがあります



日時：2024年5月18日(土)

場所：カトリック北一条教会 聖堂および隣接のカトリックセンター
札幌市北1条東6丁目：地下鉄東西線バスセンター前・下車
⑩番出口より徒歩5分；サッポロ・ファクトリー 二条館の近くです

12:30 カトリックセンターで受付開始

- ◆礼拝の式文冊子をお持ちでない方は購入できます(200円 100部用意します)
- ◆合同礼拝後の交流会(15:30～16:30)に参加希望される方の受付もいたします(参加費300円：先着100名)

13:30 北一条教会聖堂にて開会

13:30～13:55 ミニ・トーク「パレスチナの歴史と現状」

(小野有五：カトリック札幌司教区エキュメニカル委員会代表)

14:00～15:15 合同礼拝

(式文冊子に従って行われますので、式文冊子をご用意ください)

司式：藁島克哉(カトリック札幌司教区司祭) メインメッセージ：笹森田鶴(聖公会主教) リーダー3名：清水和恵(日本キリスト教団新発寒教会牧師)、中澤陽恵(日本キリスト教会琴似教会)、佐藤裕子(カトリック正平協)、パレスチナの女性の声：福音ルーテル教会、矯風会、救世軍の女性3名による代読

『讚美歌 21』『聖歌集』『パレスチナの讚美歌』から、みんなで歌います!! オルガン：大野敦子(カトリック北一条教会)

15:30～16:30 カトリックセンターにて交流会

パレスチナの平和を祈って・・・

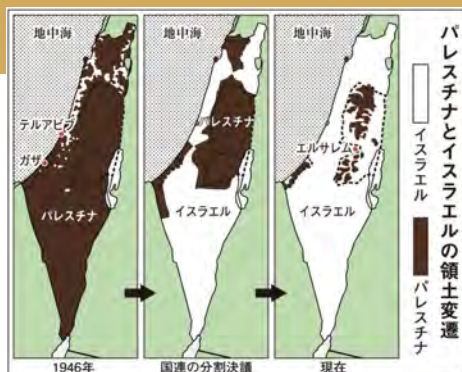


パレスチナの人々は、聖書の時代から羊やヤギを遊牧して暮らしてきました。農業が盛んになった今も、伝統的な遊牧が見られます。



パレスチナの子どもたち

ゲッセマネのオリーブの木：イエスさまが最後の祈りを捧げた場所に、それを見ていたかもしれないオリーブの巨樹が残っています。オリーブはパレスチナを象徴する木でもあるのです。



パレスチナの土地は1947年の国連決議によって大きく減少しました(図右)。1993年の「オスロ合意」で、「ヨルダン川西岸」と「ガザ」、2つの「暫定自治区」が承認されたものの、イスラエルによる一方的な入植や「分離の壁」(写真右)建設による封鎖が続き、それに反発したハマスの攻撃への報復として、ガザ地区への大規模な軍事侵攻がなされ、多くの女性や子どもたちが殺されています。

パレスチナの平和は、どのようにしたら回復されるのか、私たちは、パレスチナの女性たちのメッセージに耳を傾けながら、キリスト者として考えたいと思います。報復と暴力は、さらなる暴力の連鎖を生むだけです。私たちにできることは何か、ともに心をあわせて祈りつつ、本当の意味での「平和」の実現に向けて、一人一人、持てる力を出し合いましょう!



1994年の「世界祈祷日」の式文作成国もパレスチナでした。上はその時のポスター。下は今回の式文を用意した女性たち。30年たっても、パレスチナの状況はよくなるどころか、逆に悲惨になってしまいました。少しでもよくなりたいです!!



主催：カトリック札幌教区「エキュメニカル委員会」

協力：札幌キリスト教連合会

問い合わせ先：c3stella.ruri@gmail.com

tel. 090-2870-4642 (エキュメニカル委員会：沼田)